

おさめがわ木す

みんなの議会だよ

No
146

平成28年11月

題字：青生野小学校
6年 山形 綾音さん



のこった、のこったあ!
負けてたまるかあ〜!!
熊野神社 チビッコ相撲

道の駅基本構想策定など可決!

9月定例議会 2~5

初の議会モニター懇談会 14~15

一般質問に8議員登場 6~13

追跡! どうなったっぺ?

あの一般質問 16

村民の広場 17

ふるさと鮫川への想い 18

9月定例会

使いみちを認定

9月
定例会

健全と判断～

9月定例会の あらまし

会計別決算状況

会計別	歳入総額	歳出総額	差引額	
一般会計	39億2515万円	37億7093万円	1億5422万円	
特別会計	国保 事業勘定	6億533万円	5億7973万円	2560万円
	国保 直診勘定	7915万円	6625万円	1290万円
	簡易水道事業	1億6641万円	1億2036万円	4605万円
	村営バス	1208万円	980万円	228万円
	集落排水事業	3470万円	3311万円	159万円
	介護保険	4億4920万円	4億3741万円	1179万円
	交流施設	1306万円	1223万円	83万円
	学校給食センター	1億238万円	1億207万円	31万円
	後期高齢者医療	3504万円	3498万円	6万円
	小計	14億9735万円	13億9594万円	1億141万円
決算総額	54億2250万円	51億6687万円	2億5563万円	

9月定例会が9月14日から21日までの8日間の会期で開催されました。

第1日目に、一般質問を行い8議員が水道水の確保や財政支援団体の監査などをとりあげ、村政をただしました。また、平成27年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率についての報告の後、条例5件、平成27年度会計決算認定9件、平成28年度補正予算10件、過疎自立促進計画

の変更1件の提案理由の説明がありました。

第2・3・7日目に、総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会の合同議案調査を開催し、議案審議しました。

最終日に、審議した条例、決算認定、補正予算、過疎計画の変更を、原案のとおり可決しました。また、追加提案された人事2件、諮問1件を同意・可決し、閉会しました。



建物が解体撤去された旧西島旅館跡地



ふくしま森林再生事業を実施した戸草地区

27年度の主な事業

事業名	金額
空き家再生等推進事業 道少田住宅跡地整備工事	1100万円
携帯電話エリア整備工事	
折戸地区	2672万円
藪地区	2576万円
地域づくり総合支援事業（サポート事業）	1069万円
湯の田温泉活用事業 建物解体工事	2840万円
地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業	
消費喚起プレミアム商品券発行事業	919万円
村総合戦略策定事業	805万円
鹿角平観光牧場合宿誘致事業	1390万円
産業起こしプロジェクト推進事業	190万円
特産品開発推進事業	657万円
こどもセンター太陽光発電設備事業	3379万円
中山間地域等直接支払交付金事業	9295万円
農業基盤整備促進事業 藪地区農道改良工事	26年度繰越 2448万円 27年度 3725万円
ふくしま森林再生事業	26年度繰越 9664万円 27年度 2826万円
山口・官代地区、戸草地区、真坂地区	
県単治山施設補助事業	26年度繰越 442万円
戸草地区治山施設工事	27年度 328万円
社会資本整備総合交付金事業	
鮫川中学校線舗装補修工事	4218万円
新宿古殿線舗装補修工事	3041万円
江堀那倉線ほか舗装補修工事（江堀牧野線分）	3621万円
公営住宅宿ノ入団地建設工事	8748万円
公営住宅整備事業	
公営住宅見渡団地被災住宅建替工事	3434万円

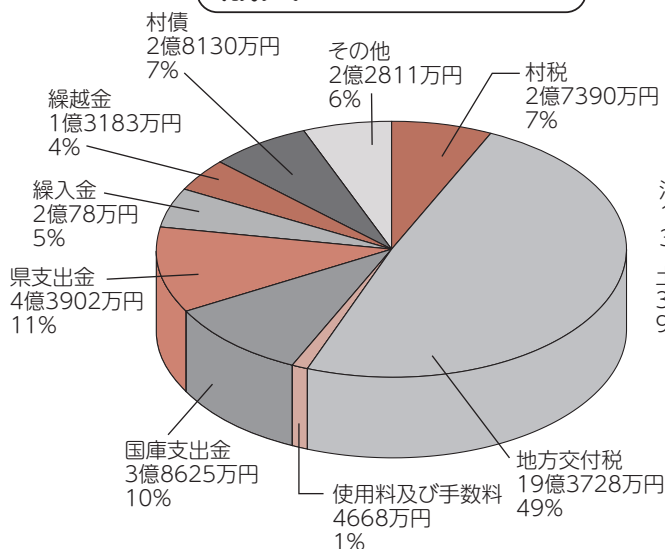
平成27年度 決算

貴重な財源の

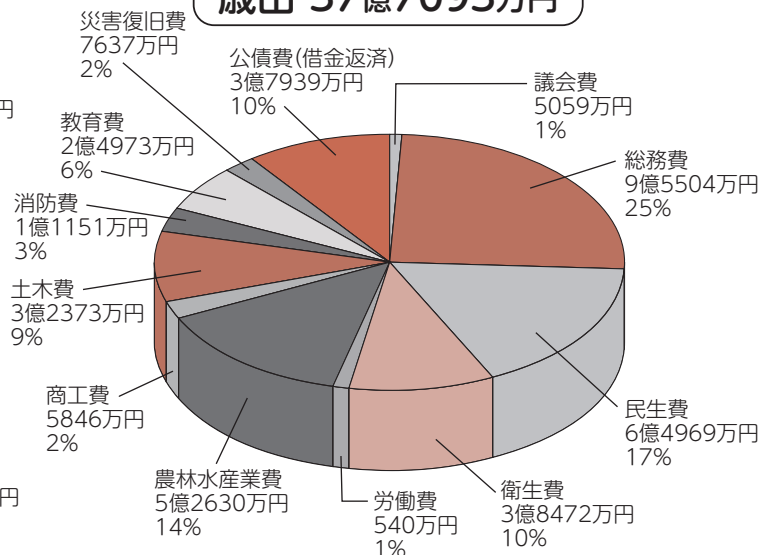
～財政状況は

■一般会計決算

歳入 39億2515万円



歳出 37億7093万円



一般会計では、1億149万735円が28年度へ繰り越す額であり、このような厳しい財政状況の中で自立の村づくりに向けて適正な財政運営の効率化を図り、実質収支額が黒字決算となったことに対し敬意を表する。

村税の年度内完納を達成し59年間継続完納となったことを評価したい。村債(借入れ)は、対前年比41・8%の増であったが、全会計総括的には、黒字で翌年へ引き継いだことは喜ばしいことであり、今後もより一層の効率的な予算の執行に留意され、健全財政の運営に徹し、住民福祉向上に努めていくことが望まれる。

平成28年9月7日

監査委員 前田 雅秀
監査委員 根本 一美



決算審査の結果を報告する
根本一美監査委員

監査委員 決算審査意見書(抜粋)

住民福祉向上に向けさらなる努力を

法律に基づき、市町村では毎年度の決算において、4つの財政健全化判断比率の公表が義務付けられています。

村の決算では、実質赤字比率、連結実質赤字比率

ともに黒字決算であり赤字額は発生しません。また、実質公債費比率、将来負担比率は健全化基準を下回り良好な状態を示しています。

- ◆ **実質赤字比率** 一般会計等(普通会計)における赤字額の標準財政規模に対する比率
- ◆ **連結実質赤字比率** すべての会計の赤字額の標準財政規模に対する比率
- ◆ **実質公債費比率** 一般会計等(普通会計)が負担する地方債の償還金の標準財政規模に対する比率
- ◆ **将来負担比率** 一般会計等(普通会計)が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率

資金不足比率 (%)

(%)

資金不足比率	27年度	26年度	資金不足比率
簡易水道事業特別会計	-	-	20.0
集落排水事業特別会計	-	-	20.0

財政健全化判断比率 (%)

(%)

健全化判断比率	27年度	26年度	健全化基準
実質赤字比率	-	-	15.0
連結実質赤字比率	-	-	20.0
実質公債費比率	5.0	5.3	25.0
将来負担比率	-	-	350.0

常任委員会の合同議案調査

慎重なる議案調査・検証



両常任委員会による合同議案調査

**商工会女性部40周年記念事業補助金、
鯉木田配水池整備工事など、集中調査**

平成28年9月定例議会では、平成27年度の決算及び平成28年度の補正予算案、さらに条例改正5議案、人事案など合わせて27議案が提出されました。

これらの議案に対して、総務文教常任委員会、産業厚生常任委員会の議案調査は、各担当課長から事業実績や議案の提出理由等の詳細な説明を受け、2日間にわたり議案調査を実施しました。

さらに、27年度に事業が終了した「うつくしま森林再生事業」など6箇所の現地確認をし事業実績の確認をいたしました。

総務文教 常任委員会

答	問
中心地活性化と手まめ館の老朽化対策と子育て支援	道の駅基本構想策定業務と事業の基本的な考えは

【27年度決算調査】

- 湯ノ田温泉活用基本構想の業務内訳
- 鹿角平観光牧場合宿誘致事業の内訳
- 村有建物の敷地賃貸料の支出内訳
- 鹿角平乾燥施設の用途買い物弱者支援事業他

【28年度補正予算】

- 鹿角平観光牧場PR事業の内訳
- 鹿角平天文台反射式望遠鏡設置工事の内訳
- 商工会女性部40周年補助金の支出理由
- ほつとはつす体験館塗装工事の内訳他

産業厚生 常任委員会

答	問
施工上の不注意から労基署から指導があり、工事が遅延繰り越しとなった	鯉木田配水池整備工事の工期遅延と繰り越しの理由は

【27年度決算調査】

- さざり荘新ボイラー改修工事
- 特産品開発推進業務の内訳
- 大豆生産奨励報償費の内訳
- 障害者自立支援給付費の内訳
- 農業委員会費の負担金補助金、交付金の各内訳

【28年度補正予算】

- 定住促進住宅建設設計業務（水口1棟4戸）
- 介護ロボット導入促進事業
- 自家用水道施設整備補助金
- 手まめ館新メニュー開発支援の内訳
- 花苗生産施設の事業内訳

現地調査



菟地区農道改良



道少田住宅跡地整備



ふくしま森林再生戸草地区

一般会計
修正算
一般補予

道の駅基本構想策定など

賛成多数で可決

平成28年度一般会計補正予算は1億5千788万円を補正し、予算額を31億2千233万円として賛成多数で可決しました。国の地方創生事業の交付対象事業を活用し「本村の中心地活性化事業」のなかで「道の駅構想策定基本構想」は議案調査でも質疑が相次ぎ、賛否が分かれ討論が交わされました。

地方創生交付金を活用

中心地の賑わい創出を提案



館山、手まめ館を核とする村中心地

【質疑】前田 武久議員

道の駅基本構想策定業務として550万円計上している。場所は本村中心部を想定されていると思うが構想概要について伺う。

【答弁】村長

仮定の論議であるが、村の平場に2haほどの広場を作り賑わいを村の中心地につくりたい。その土地の盛り土は農業者トレーニングセンターの前の山を削り取り、修明高校と道路で結んで賑わいを創出したい。

【質疑】京條 英征議員

道の駅構想策定の中で学習センター建設計画があることを知った。細部にわたって計画も示されていない状況では検討する時間も、村民から意見を聞く時間も無い。盛土

に利用する予定の山は残すべき、国交省の認可は得られるのか、人口減少が続く将来にふさわしい建設なのか、大きな負担にならないのか、など多くの意見が予想される。

大きな事業は村民が主役でなければならぬし、成果が期待できなければならぬ。今の状況は村民から拙速の批判を受けかねないが。

【答弁】村長

「村の中心地に賑わいを」という提案が若い人達から出された。さらに地方創生交付金の事業が湧きだし、「村の中心の賑わいづくりを皆さんと一緒に考えたい」と提案した。

反対討論(要約)

前田 武久議員

道の駅に対して反対の立場で討論する。
直売所「手まめ館」が開所して11年となる。村長は公約で「振興公社立ち上げる」としていたが自立経営は未だに立ち上がっていない。手まめ館への財政支援をし、健全経営にも至らないまま道の駅構想を進めることは孫子の世代に大きな負担を課す箱物であり反対をする。

賛成討論(要約)

宗田 雅之議員

本村において年々人口が減少するなかで、人を集める、集まる施策は重要である。まして高齢化が進んでいる現状において、施設等の利便性と集約を図り、住民が利用しやすい環境づくりが大事である。また多くの若者、お母さんからも子供達とくつろげる公園の要望もあり、道の駅構想は夢のある重要な施策であると判断し賛成する。

各議員による採決結果

議員名	27年度決算		28年度補正		教育長 人事案
	一般会計	特別会計	一般会計	特別会計	
遠藤 貴人	○	○	○	○	△
堀川 照夫	○	○	○	○	○
北條 利雄	○	○	○	○	○
京條 英征	○	○	△	○	○
関根 英也	○	○	○	○	○
前田 雅秀	○	○	○	○	○
関根 政雄	○	○	○	○	○
前田 武久	○	□	△	□	○
宗田 雅之	○	○	○	○	○

○=賛成 △=反対
□=特別会計の交流施設のみを反対

ここが聞きたい!

議員8人が登壇

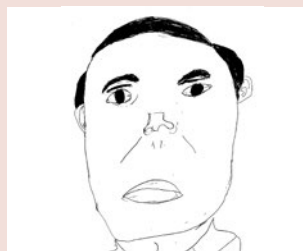
村政をただす!!



(藤田 渚さん)

北條 利雄 議員 P7

- ① 指定管理者・有償無償貸与管理者との管理手順
- ② 地域ポイント制度
- ③ 財政的支援団体への監査



(蛭田 柁矢くん)

関根 英也 議員 P11

- ① 肉用牛繁殖産業の最先端技術による再構築と公設民営による畜産業の振興と農地再生策



(鈴木 楓さん)

京條 英征 議員 P8

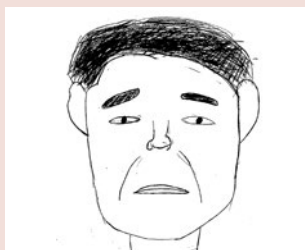
- ① 夢に向かって、理想と情熱と行動、そして感動を



(鈴木 快雅くん)

堀川 照夫 議員 P12

- ① 村道関口世々麦線の整備について



(石井 明桂さん)

関根 政雄 議員 P9

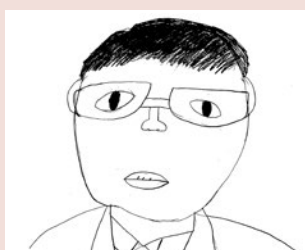
- ① 簡易水道整備計画と生活用水確保の支援
- ② 要望、陳情の取り扱いと始業執行



(生田目 真歩さん)

遠藤 貴人 議員 P12

- ① 村内公共トイレの整備と今後の方策



(鈴木 萌華さん)

宗田 雅之 議員 P10

- ① 暮らしていくための施策
- ② 教育環境について



(鈴木 壮大くん)

前田 武久 議員 P13

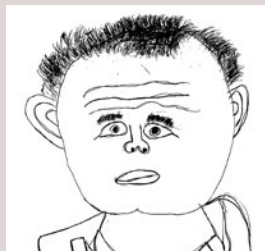
- ① 急を要する飲料水の確保について
- ② 村道改良と維持管理について

議会の進行



星 一彌 議長
(須藤 翔勇くん)

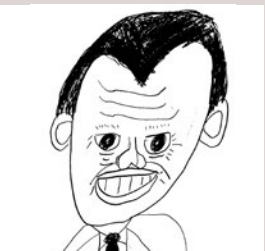
一般質問の答弁者



大樂 勝弘 村長
(関根 煌星くん)



奥貫 洋 教育長
(藤田 溪吾くん)



根本 一美 監査委員
(木之内 結梨さん)

にが絵は鮫川小3年生に描いていただきました。



北條 利雄 議員

問 地域ポイント制度の導入を伺う

答 住民と行政が一体化した取り組みを検討する

質問

時代の変化に対応した革新的な取り組みに「地域ポイント制度」がある。目的は、「少子高齢化、環境・エネルギー、地域産業、地方財政等」の地域が抱える地域問題を解決するためであり、住民の参加を促し行政と一体となり取組むもの。協働社会に必要な諸活動、地元商店会等との一体化・連携を「地域総合カード」として機能させ、地域循環型の助け合いシステム、地域経済の活性化に貢献させることが重要。地域「ポイント制度」導入の所見を伺う。

答弁(村長)

住民と行政が協同して取り組むのに地域ポイント制度が有効なのか、費用対効果などを総合的に検討し、判断する必要がある。

再質問

地域経済の循環の具体的手法が示されていない。行政が主体となり、実効性を高め誘導する必要がある。

問 公の施設の経営上の管理手順の確立を伺う

答 管理者と連携し、村民の付託に応える

質問

指定管理者制度は、民間活力の導入により「住民サービスの向上」「経費の削減」を目指すもの。運用にあたっては、経営の両立が確認されなければならぬ。利用者の声の聴取、実地調査など管理の実態を把握し、公的責任を果たす必要がある。経営上の管理手順を確立し、施設の設置目的である「住民サービスの向上」に寄与すべきである。管理者との経営上の管理手順の確立についての所見を伺う。

答弁(村長)

これを機会に、住民と行政が一体化した取り組みを早い時期に検討する。

答弁(村長)

担当部署が一定のチェックを実施しているが、管理手順の位置づけの取り組みは行っていない。業務の評価や改善事項を次年度の事業計画に発展的に結びつけるシステムを構築する必要がある。

再質問

管理基準を制度化し、住民サービスに寄与すべきである。

答弁(村長)

管理者と連携を密にし、村民の付託に応える。

問 財政的支援団体への監査を伺う

答 抽出して監査を実施する計画である

質問

財政的支援団体に対する補助金、交付金、負担金等、財政援助に係る出納その他の事務の執行も監査対象である。団体への監査は件数も多く、地方自治法

の規定でも内容が限定され、全般にわたる監査が可能となっていない現状がある。全てを網羅することは困難だと認識するが、行財政の適法性、効率性等の増進を図る観点から、財政的支援団体への抽出監査などの計画や監査の改善点を伺う。

答弁(代表監査委員)

限られた人員、日時、予算の中、どのような効率的な監査をすべきか検討を重ねてきた。27年度は現地調査を含め、長期間に及び財政支援団体への監査を見合わせた。28年度は監査の基本方針にある「補助目的が十分達成されているか」により、定期監査に合わせ抽出して監査を実施する計画である。



地域に“笑顔”を届ける店舗「手・まめ・館とすまいる」





京條 英征 議員

問

鹿角平を名実ともに観光牧場として整備を

答

子供を遊びから学び育てる最適な場所だと考えている

質問

東根市の視察研修で痛感した取り組みを基に伺いたい。東根市は、鮫川村とは比較にならない恵まれた立地であった。38年間人口増加をつづけているとい

っても、参考にもならないと懸念していた。だがその要因が立地にばかりにあるのではないと教えられた。室内型と、広大な屋外の遊び場の整備は、自主性、社会性、獨創性などを育むのは遊びから学ぶ「遊育」の視点からという。「につけい子育て支援大賞」も受賞しており将来を見据えた多くの子育て支援策を推進していた。

さて鮫川村である。鹿角平を名実ともにその名にふさわしく整備できないかと考える。景観を活かし、子供が無我夢中になって遊



子供に夢いっぱいな観光牧場に

びたくなる遊具を備え、羊や牛が草を食み、季節にはそれぞれの花が咲き、見渡せば親子でサイクリングを楽しんで、そんな姿を将来にのこせないだろうか。

国道289号線も鹿角平の側を通る構想ならば、将来は交通の要衝に位置するのが鮫川村である。

過疎どころか県内でも第一級の観光地として脚光をあびるのは夢ではないと思う。情熱を持ってどう行動するか次第と考えるが如何か。

答弁(村長)

鹿角平は昭和50年に開発されて以来、多くの農家の努力によって維持されてきた。そうした営みによって生み出された雄大な景観を活かし観光牧場として整備されてきた。

再質問

今の鹿角平の姿があるのは、大変なご苦労があつての上だと良く理解できた。

あの雄大な景観を守りながら名実ともに誇れる観光牧場にするべき。あれだけ魅力ある場所は他にはない。

他に埋もれている宝物を探しそれに磨きをかければ、美しい村、行つてみたい村として全国から注目される時代が必ず来ると信ずる。人を奪われる側の村として、守りながら攻める大事な時期であり、それが鹿角平であり、子供へ向けた施策の展開であると考えている。

答弁(村長)

村の自然豊かな緑を大事にし、子供が誇りを持って学べる村、育てる魅力ある村づくりに精一杯頑張らせていただく。

バンガロー、バーベキューハウス、天文台、クロスカントリーコースなどである。一番の観光資源である採草地の雄大な景観を維持していきながら農家の理解と協力を得て、子供が夢中になつて遊びたくなる遊具の設置についても相談し財源の確保も含めて検討したい。

子供の頃の原体験がその後の成長、発達に大きく影響すると言われている。鹿角平はそういう体験をするに最適な場所だと思っている。

広大な草原と満天の星空をアピールポイントに館山公園、湯の田温泉などと連携し観光地としての魅力を高めていきたい。



関根 政雄 議員

問 生活飲料水確保事業、自家用水道の支援を推進すべき

答 簡易水道は計画どおり、自家用水道支援は来年度に検討

質問

本村の簡易水道の普及率は50%弱である。今後の整備計画を伺う。また半数の自家用井戸に頼る村民は降雨が少なく水源が枯渇し危機的状況にある。水源確保として一戸あたり20万円の支援策があるが、補助金を増額し村民の負担軽減をすべきではないか。

答弁(村長)

鍬木田配水池の更新が平成30年3月に完成する。その後、西野西部地区の給水区域の拡張を予定している。

補助金の増額は来年度の予算編成で検討する。

再質問

平成28年度は既に14世帯の自家用水道補助金の申請があるが、一戸あたりの工事費の平均はいくらか。

答弁(村長)

一戸あたりの平均額は72万1千円である。

再質問

古殿町は補助金の上限が30万円。平田村は

井戸掘りの他に、配線、配管、水質検査、浄水器にいたるまで上限50万を補助している。

若い子育て中の家庭など安全な飲料水確保のための補助金要因の間口を広げるべきではないか。

答弁(村長)

水道普及率が低い村では今後も補助金申請が増える予想する。事業費の半額を補助すると約束できる財政状況にない。

再質問

新築や増築時の水源確保や水道工事に対する支援をすべきではないか。

答弁(村長)

新築をする場合の水源確保に依る財政の余力はない。

問 村民からの要望、陳情の扱いと採択法は

答 緊急性、重要性、他地区との均衡性を考慮し事業執行する

質問

村民から村に提出された多種にわたる要望、陳情は地区民の生活に密着した案件である。未執行の事業、特に古い年度に提出している要望など、採択の手順と計画について伺う。

再質問

陳情、要望の箇所の現地視察を実施しているか。また提出者や行政区長にその後の経過を説明しているか。

答弁(村長)

要望者に対しては答えは出している。また数ヶ所集まらないと採択にならない事業もあるが希望に依るために努力している。

答弁(村長)

要望、陳情は平成15年から107件であり未執行は25件である。古い案件については

再質問

要望箇所は各行政区分長への引き継ぎと懇談が必要ではないか。

答弁(村長)

下積みの要望など新任区長へ引き継ぎができるように係に申しつける。



支援が求められる自家用水源確保事業